

NISA元年も残り2カ月を切り、タイムリミットが迫る中、NISAで何に投資する？ 10月の人気は、既存投資家が日本株・米大型ブレンド株(MLP)・グローバル株で、新規投資家が日本株・アロケーション柔軟型・グローバル債！

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## 金融機関は2014年も残り2カ月を切り、NISA利用のタイムリミットを通知している。

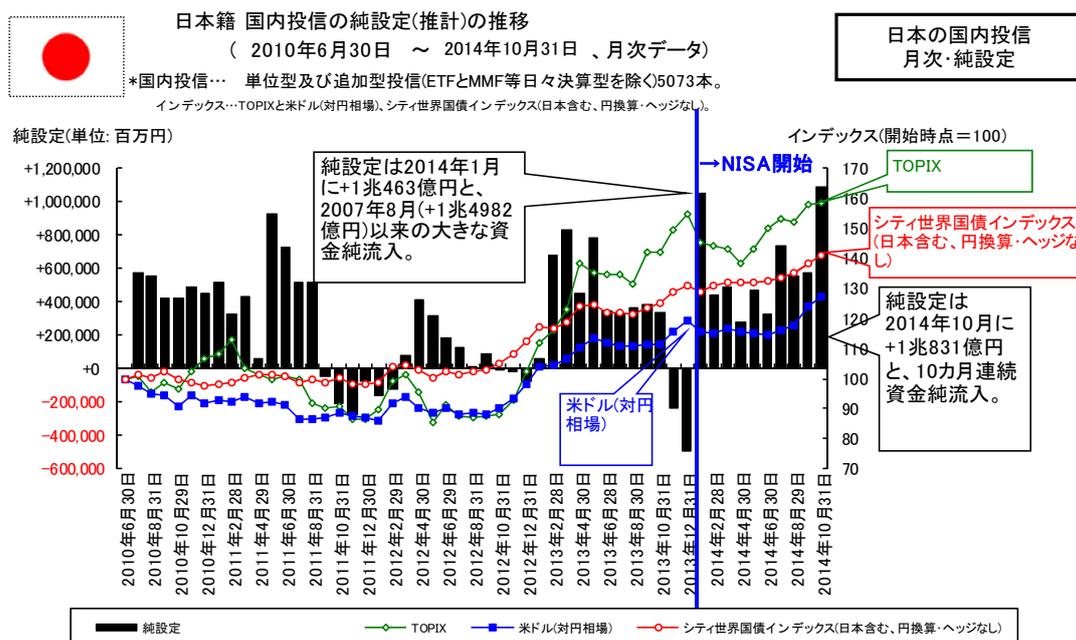
NISA(少額投資非課税制度)元年の2014年も残り2カ月を切った。金融機関はNISA口座をまだ開設していない人に向けては、たとえば「(口座開設には1カ月程度かかるため、)目安として、11月下旬までに手続きをとらないと2014年の非課税投資枠で取引できない可能性があります。」と案内するところもあり、既にNISA口座を開設した人に向けては、2014年の非課税投資枠を利用できる12月下旬の申込期限について商品別に知らせているところもある(関連期限は2014年9月8日付日本版ISAの道 その70参照～URLは後述[参考ホームページ])。

NISA投資のタイムリミットが意識される中、投資の未経験者や久しぶりに投資を始めようとする人はもちろん、投資経験者にとっても、これまでNISA口座では実際、どのようなものに投資されてきたかは参考になるだろう。そこで今回は、最新10月までのNISAのファンド動向を見る。

## 既存投資家の人気は日本株と米国大型ブレンド株(MLP)、グローバル株ファンド

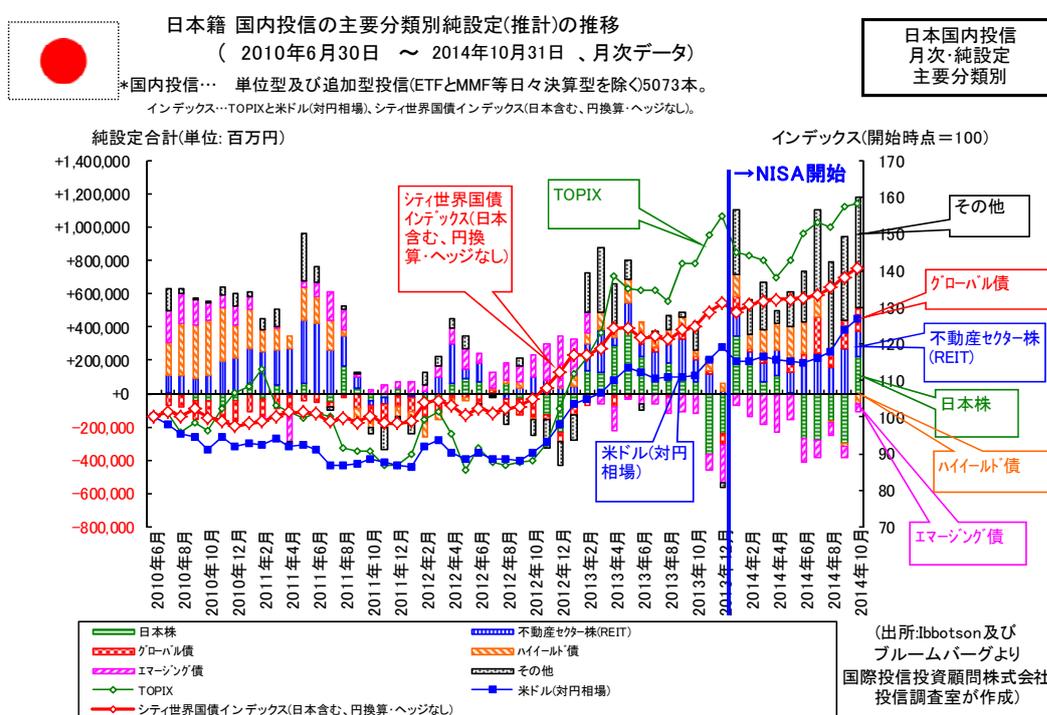
NISAのファンド動向を見るにあたって、投資家を、既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分ける。前者の既存投資家はNISAで実際に投資をしている投資家の大半を占めているとされるが、それを投信全体の動向で代替し、後者の新規投資家はNISA向けファンド(後述※2参照)で代替する事とする。

まず前者の既存投資家であるが、投信全体の純設定推移を見ると、10月は+1兆831億円と、10カ月連続の資金純流入で、2014年1月以来の1兆円超えとなった。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

2013 年末の軽減税率終了にかけ解約が膨らんだ後、2014 年 10 月にかけて安定的な資金純流入が継続している既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。最新 10 月は日本株が最も大きな純流入で、米国大型株ブレンド株がそれに次ぎ、グローバル株、不動産セクター(REIT)、グローバル債などに資金が集まっている(\*米国大型ブレンド株、グローバル株は下記グラフでは「その他」に含まれる)。日本株は 9 月に 2014 年 1 月以降で最大の純流出だったが、10 月は 5 カ月ぶりの純流入となり、純流入額は全 31 分類で最も大きかった。米国大型ブレンド株は、純流入の大半はこの分類に含まれる「エネルギー版 REIT(不動産投資信託)」とも言われる MLP 人気によるものだった(MLP については後述※1 参照)。REIT ファンドと並び NISA で人気の続いていたハイールド債は 2012 年 10 月以来の純流出となった 9 月に引き続き 10 月も純流出。エマージング債は純流出が継続しているが、流出額はやや減ってきている様だ。

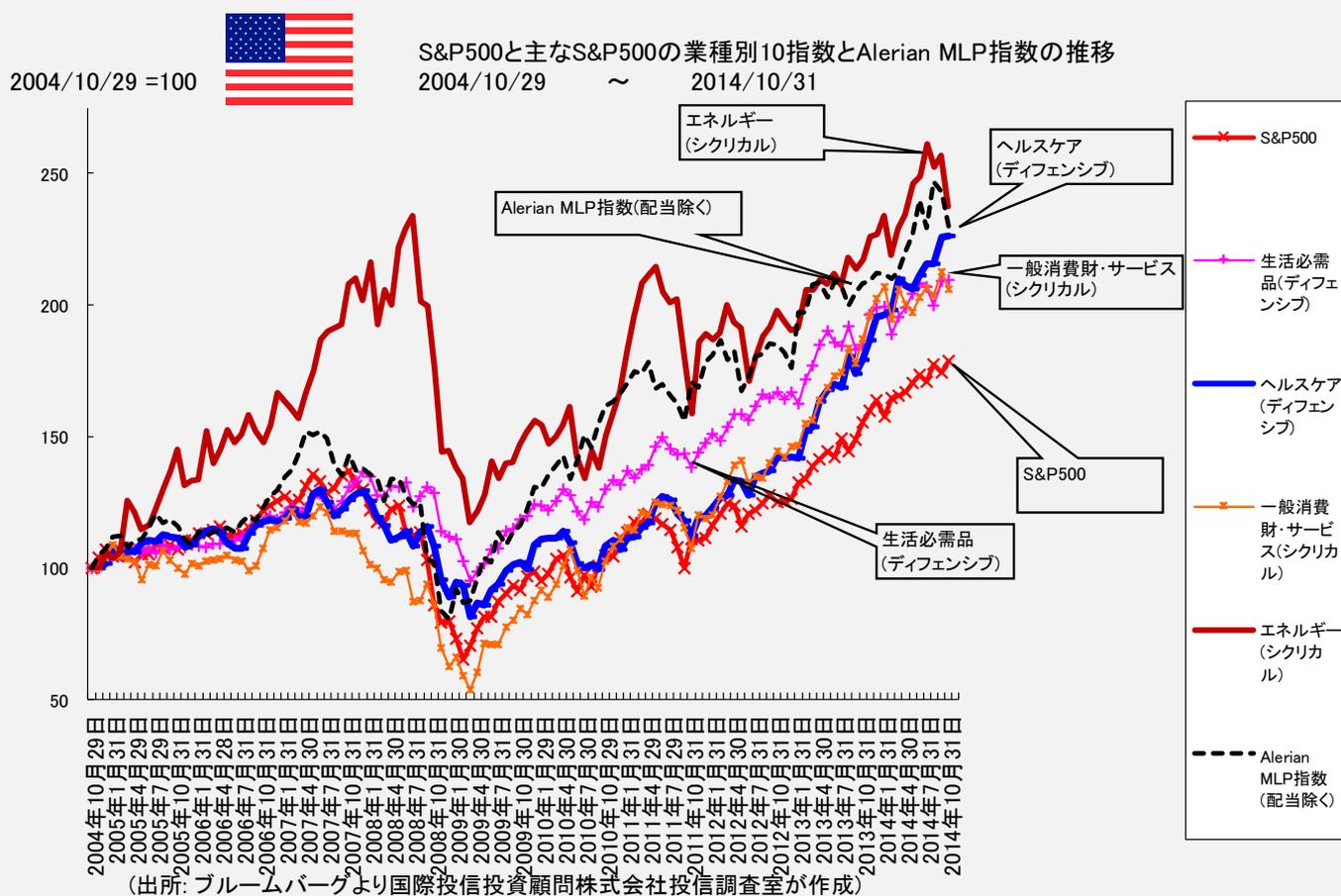


※1: MLP…MLP は「マスター・リミテッド・パートナーシップ/Master Limited Partnerships」の略で、日本の投資事業有限責任組合に相当する(\*corporation/株式会社でない)。総所得の 90%以上を米国の天然資源等のパイプラインや貯蔵施設等からの利用料や不動産賃貸料など、受動的な収入と利益にする事で、法人税免除などの税制優遇を受けられる事業形態だ。1986 年の「The Tax Reform Act of 1986」で可能となった。「エネルギー版 REIT(不動産投資信託)」(2014 年 9 月 14 日付日経ヴェリタス)と呼ばれる事もあるが、REIT は「the Real Estate Investment Trust Act of 1960」によるもので、1986 年に保有不動産運用が認められ拡大した。

MLP の本家、米国でも MLP 人気は強い。米投信評価機関モーニングスターの最新統計によると、MLP に投資するファンドは 2014 年 9 月に+15 億ドル(約 1614 億円)の純流入と 2009 年 10 月以来純流出無しで、2014 年 9 月末に純資産は 509 億ドル(約 5 兆 5856 億円)と 2013 年 1 月末以来 1 年 9 カ月連続過去最高を更新中となっている。米国では投信で一般的な「Regulated Investment Companies/RICs(連邦所得税の課税されない規制投資会社)」による MLP 投資が可能となったのはまだ 2004 年で(「The American Jobs Creation Act of 2004」による)、それでこれだけの資金を集めているのだから、その人気の強さがよくわかる。さらに、一般的な投信(RIC)で可能となった

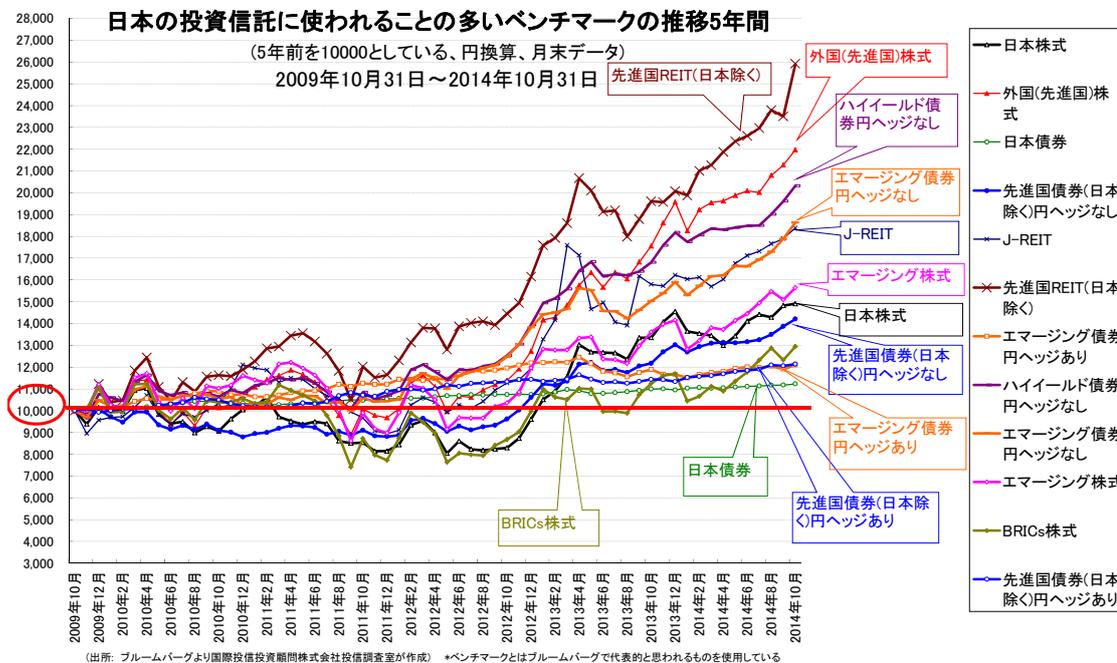
と言っても、MLP は資産の 25%を超えてはならない。そこで、「Alerian MLP ETF」の様に、一般的な投信(RIC)ではなく、corporation(株式会社)として、課税されても、100%MLP 投資をめざすものが出てきている。ちなみにこの「Alerian MLP ETF」は年 8%ほどベンチマークの「Alerian MLP Infrastructure 指数」にラグすると言う。しかし、それでも 2010 年 8 月の設定来、2014 年 9 月まで月次で純流入を続けており、2014 年 9 月末現在 96 億ドル(約 1 兆円)の純資産となり MLP ファンド最大となっている。

MLP は元々エネルギー株の一つだったので、エネルギー価格及びエネルギー株(MLP 以外)に連動する事もある。だが、「伝統的な MLP は典型的な川中企業で、大半が手数料ベース」(2014 年 8 月 9 日付米バロンズ)と言われる通り、MLP の長期契約に基づく安定的なキャッシュフローがエネルギー株(MLP 以外)との相関を低くしているのだ。過去 10 年(2004 年 10 月～2014 年 10 月)で MLP のパフォーマンスを示す Alerian MLP 指数と、エネルギー株のパフォーマンスを示す S&P500 エネルギー指数の推移を見ても、かなり異なる。尚、S&P500 種の業種別 10 指数で見て、「情報技術」「資本財・サービス」「金融」「一般消費財・サービス」「エネルギー」「素材」を景気敏感(シクリカル)株、「公益事業」「電気通信サービス」「生活必需品」「ヘルスケア」をディフェンシブ株と言うが、「エネルギー」が景気敏感(シクリカル)株である一方、MLP はディフェンシブ株にも近い動きをする。



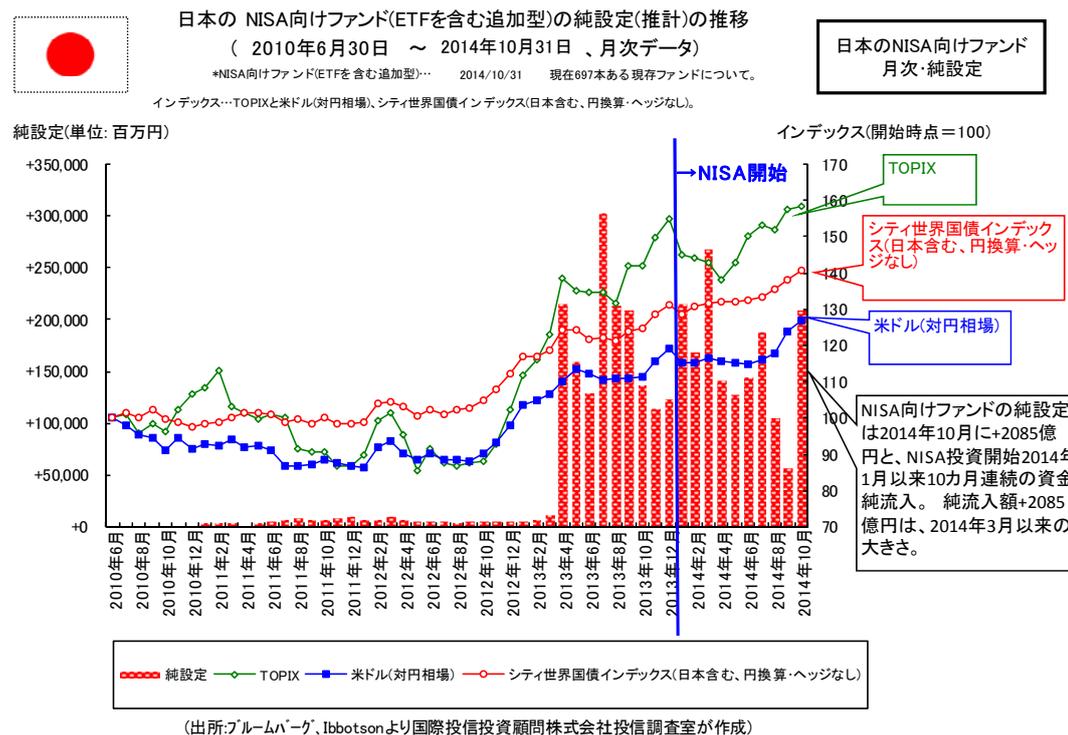
米国大型ブレンド株、グローバル株、不動産(REIT)に資金が集まる理由だが、パフォーマンスが好調だった事がありそうだ。投信に使われることの多いベンチマークを見たのが次頁グラフである。パフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、先進国株式、ハイイールド債券、エマージング債券などとなっている(\*5 年前を 10000 としている、円換算、月末データ)。

また、日本株が9月に大きな純流出で10月に純流入となったことだが、「9月は株高で利益確定の傾向が強かったのに対し、10月前半の調整局面で自律反発狙いの買いが入ったとみられる。」(2014年11月6日付日本経済新聞夕刊『日本株ファンドに反発狙いの買い』～URLは後述[参考ホームページ])という背景があった可能性がある。

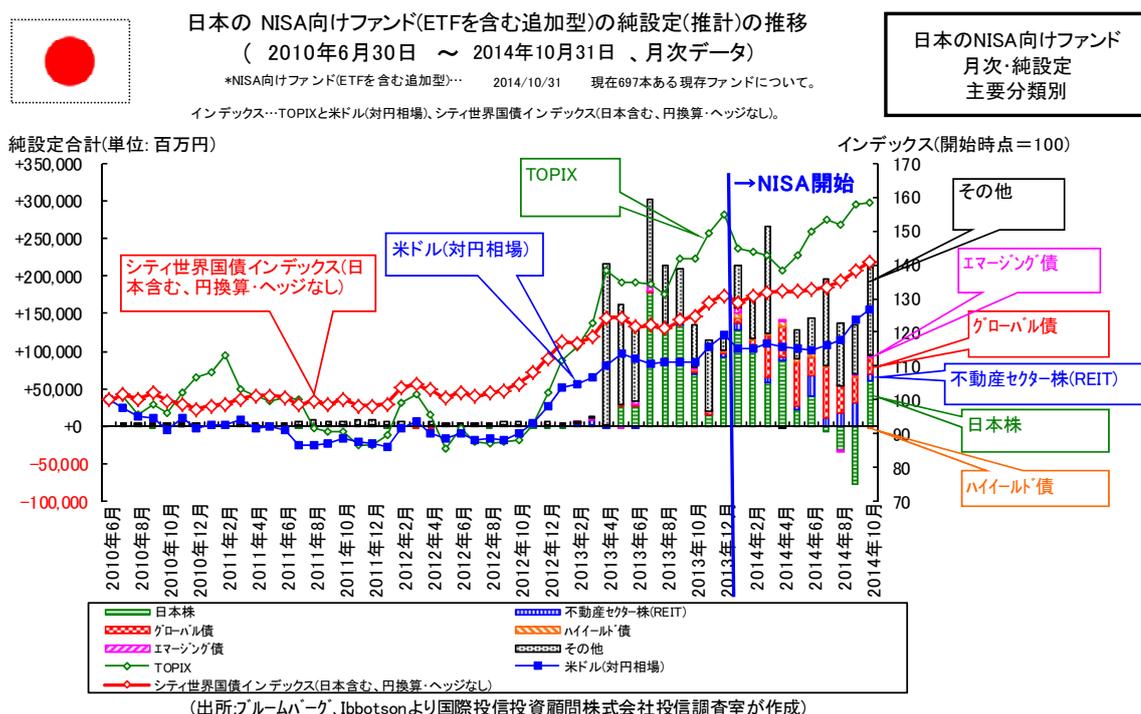


## 新規投資家の人気は日本株・アロケーション柔軟型・グローバル債

次に新規投資家であるが、NISA 向けファンド(後述※2 参照)の純設定を見ると、最新 2014 年 10 月は+2085 億円と前月 9 月の 3.7 倍。NISA 投資が始まった 2014 年 1 月とほぼ同じ水準で、年初来では 3 番目に大きな資金純流入となっている。



この2014年1月以降で3番目に大きくなった新規投資家と思われる投信の10月の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。純流入1位は日本株(前月27位)、2位は米国大型ブレンド株(前月9位)、3位はグローバル株(前月5位)、4位はアセットアロケーション柔軟型(前月3位)、5位はグローバル債(前月1位)となっている(\*米国大型ブレンド株、グローバル株、アセットアロケーション柔軟型は下記グラフでは「その他」に含まれる)。既存投資家(投信全体)と同様、日本株ファンドが前月9月にNISA投資開始(2014年1月)以来で最大の純流出となったが、10月は反転、純流入額トップに浮上した。新規投資家では、現在、日本株ファンドやアセットアロケーション柔軟型、グローバル債ファンドが人気のようにみえる。



※2: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(\*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(\*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2014年10月31日時点で697本となった。

## ネット証券会社における実際の人気は REIT、日本株、グローバル株ファンド

ここで、金融機関各社が発表する実際の投資動向もあわせて見る。2014年11月7日現在で、各社 HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新 NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているところは、ネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるが、ここでは、どのような投資対象なのか傾向を見るため、ネット証券各社が HP で公表する最新の内容を参考まで紹介する。個別ファンド含む詳細については後述 URL[参考ホームページ]ご参照。また、1カ月前の状況については、2014年10月6日付日本版 ISA その 74 を参照(後述 URL[参考ホームページ])。

マネックス証券では10月のNISA口座における売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・3位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位グローバル株ファンド、4・5位日本株ファンドとなっている。前月1~3位は不動産セクター(REIT)ファンド、4位グローバル株ファンド、5位日本株ファンドだった。

最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週10月27日から31日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・3位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・5位は日本株ファンド、4位アセットアロケーション積極型となっている。約1カ月前の9月22日から26日までは1・2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位アセットアロケーション積極型、5位は日本株ファンドだった。

楽天証券も週間ランキングを発表しており、10月27日から31日のNISA投資信託・買付金額の1・2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・4位は日本株ファンド、5位はグローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の9月22日~26日は1・2・4・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンドだった。

10月は前月9月のようなREITファンドへの集中した人気はやや薄れて、グローバル株ファンドや日本株ファンドにも人気分散してきているように見える。

買付ランキングを一般のHPに公表している金融機関は少ないため、年初から10月末にかけての買付に値上がり・値下がりを加えたNISA口座・保有残高ランキングを発表しているネット証券会社も参考として見る。

最大手であるSBI証券のNISAランキング・投資信託では、NISA導入から約10カ月後の10月31日現在、1~3・5位不動産セクター(REIT)ファンド、4位日本株ファンドとなっている。前月9月は1~4位が不動産セクター(REIT)ファンド、5位日本株ファンドだった。

楽天証券のNISAランキング・投資信託では11月6日現在、1・3位不動産セクター(REIT)ファンド、2位グローバル株ファンド、4位グローバル債ファンド、5位アセットアロケーション型となっている。前月9月は1位グローバル株ファンド、2位日本株ファンド、3位グローバル株ファンド、4位グローバル債ファンド、5位不動産セクター(REIT)ファンドだった。

既存投資家と新規投資家の両方で見られたように、さらにネット証券会社における実際の売れ筋投信から見ても、REITファンドの人気は10月も継続。加えて、グローバル株式ファンドや日本株ファンドの人気の傾向も見られる。以上、NISAにおける投資信託の最新動向だった。引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見てNISA動向を判断していきたい。

[参考ホームページ]

2014年9月8日付日本版ISAの道 その70「来年に持ち越せないNISAで何に投資する? NISA開始から8カ月で、人気のあるのはREITファンドやグローバルの株・債券ファンド。」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140908.pdf>」、2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、  
2014年11月6日付日本経済新聞夕刊「日本株ファンドに反発狙いの買い」…「<http://www.nikkei.com/my/#!/article/DGKKZO79351240W4A101C1ENK000/>」、  
2014年10月6日付日本版ISA その74「NISA元年も残り3カ月、金融機関がNISA駆け込み需要の取り込みを強化する中、NISAで何に投資する? 9月はREITファンドとグローバル債券・株式ファンドが人気!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141006.pdf>」、  
大和証券9月月間のNISA口座の買付金額ランキング…「<http://www.daiwa.jp/service/isa/ranking.html>」、  
マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales>」、  
SBI証券のNISAランキング・投資信託・保有残高…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、  
楽天証券のNISAランキング・投資信託・残高…「<https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/>」。

以上  
(投信調査室 松尾、窪田)

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

### 本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。
- ・Alerian MLP Indexは、Alerianの登録商標であり、Alerianからの使用許諾に基づき使用しています。